

8月度アンケート集計結果

アンケート実施期間：8/17～8/31、回答社数：53社(正会員:91社+5団体)

2026年9月1日

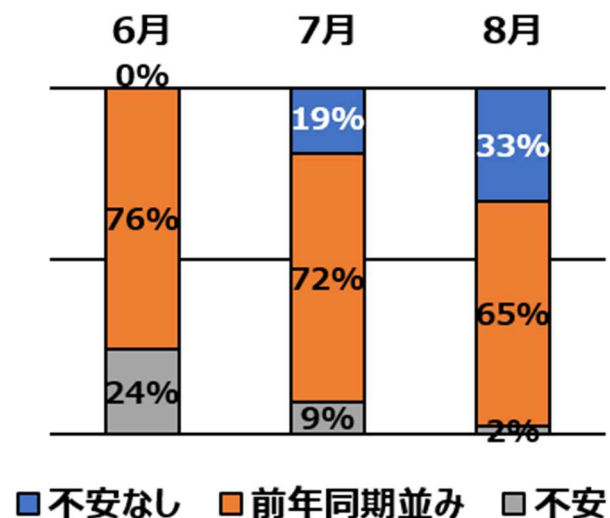


一般社団法人

JPMA 日本塗料工業会

§ アンケート集計結果（１） <8月17日時点の肌感覚で状況を教えてください>

現在の原材料の調達に



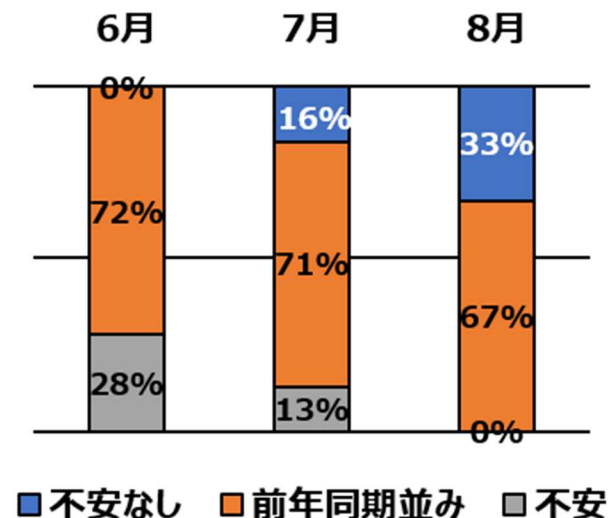
【7月⇒8月では】8月では調達に「不安なし」と「前年同期並み」の合計が98%となった。不安を感じられている部分は災害による影響に関して。

【コメントの要約】

- ・ターペン、高沸点溶剤150、一部原料について不足感や調達不安がみられる。また、一部ワニスでは購入が難しい状況も発生している。
- ・フタル酸については千葉豪雨の影響による供給懸念があるものの、それ以外の原材料については概ね問題ないとの見方がある。
- ・「特に不安なし」「現時点で支障や不安なし」とする意見もあり、調達環境全体としては大きな問題は生じていない。

【総論】一部原料やワニスで供給・調達への懸念がみられるものの、影響は限定的。原材料全体としては、現時点で大きな支障なく概ね安定した調達環境に回復してきている。

来月以降の原材料の調達に



【7月⇒8月では】来月以降の調達においては「不安なし」の選択が倍増し、「不安を感じる」という意見は寄せられなかった。

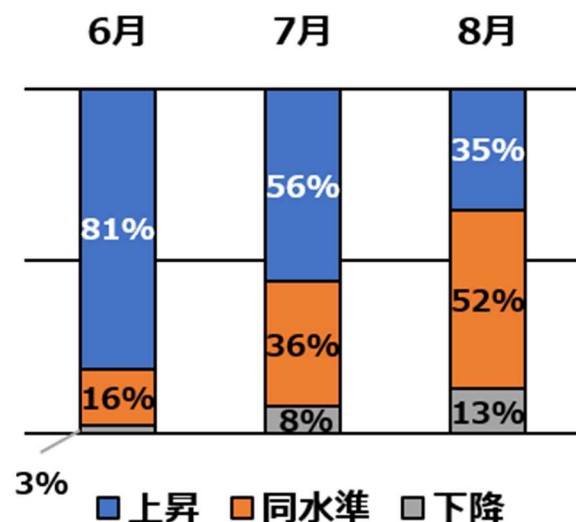
【コメントの要約】

- ・ターペン、高沸点溶剤150について調達不安がみられる。フタル酸については千葉豪雨の影響があるものの、今後解消するとの見方がある。
- ・各メーカーから9月までの実績供給は問題ないとの回答がある一方、10月以降については不透明との回答もあり、先行きへの懸念が残っている。
- ・米国・イラン情勢や中東情勢が悪化した場合、原材料の出荷停止や価格再上昇につながる可能性があり、今後の影響を懸念する声がある。

【総論】9月までは概ね供給が確保される見通しだが、10月以降は不透明。中東情勢の悪化による原材料の供給停止や価格再上昇への警戒が続いている。

§ アンケート集計結果（２） <8月17日時点の肌感覚で状況を教えてください>

原材料価格は一か月前と比較して



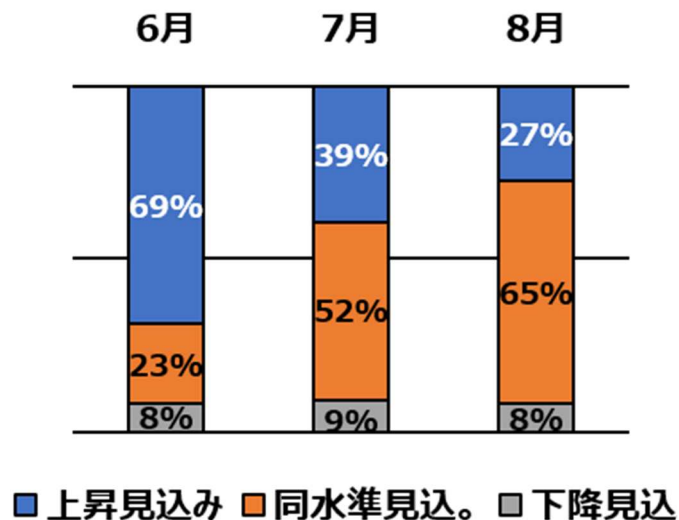
【7月⇒8月では】一ヶ月前に比べて「下降」を選択された会員が13%に増加したが、8月においても1/3を超える会員で「上昇」していると感じられている。

【コメントの要約】

- ・ナフサ価格の値戻しや供給過剰を背景に、溶剤類、シンナー、一部モノマー、アクリルエマルションなどは下落傾向。ナフサ価格も12万円程度から10万円程度まで低下している。
- ・加工度の高い樹脂、顔料、添加剤、副資材などは高止まり、または値上げが継続。一部では2次値上げもあり、為替、流通コスト、人件費、収益改善などナフサ以外の要因も価格上昇に影響している。
- ・インク・樹脂の値上げに伴う容器類の価格改定や、鋼材価格上昇を背景とした金属缶の値上げがみられる。一方、1か月前に値上げされた原料は、その後据え置きとなっている。

【総論】溶剤類はナフサ価格の低下を受けて値下がり・値戻し傾向にある一方、樹脂・顔料・添加剤などは高止まりや値上げが続き、価格動向は二極化している。

原材料価格の今後の見込み



【7月⇒8月では】「上昇見込」が39%→27%へ減少してきたが、約2/3の65%で「同水準」が続くと見ており長期化が想像される。

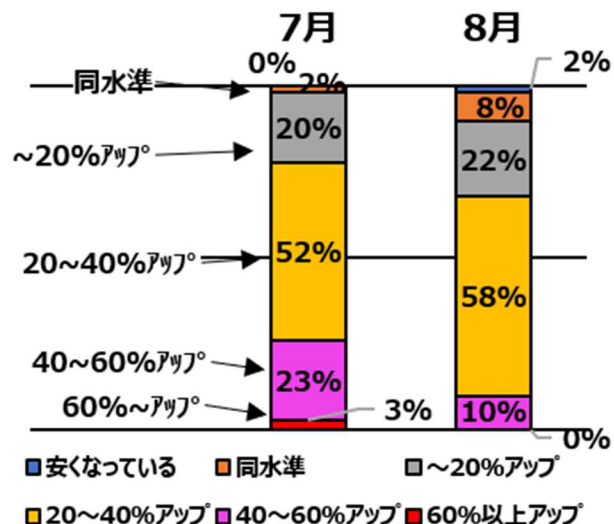
【コメントの要約】

- ・溶剤類はナフサ価格の動向を受け、若干の下落・値戻しが見込まれる。シンナーや一部モノマー、輸入モノマー関連も下落するとの見方がある。
- ・樹脂や添加剤は高止まりが続く見込み。酸化チタン、有機・無機顔料では値上げ案内があり、容器類も鋼材価格上昇を背景に値上げが提示されている。2次・3次値上げの動きもみられる。
- ・原料ごとに値下がりや値上がりが混在するため、全体では現状と同水準、または若干の下落を見込む意見が多い。価格交渉の継続案件や今後の価格改定など、不透明感も残っている。

【総論】溶剤類は下落・値戻しが見込まれる一方、樹脂・顔料・添加剤等は高止まりや値上げが続く見通しで、全体では横ばいから若干の下落が予想される。

§ アンケート集計結果（３） <8月17日時点の肌感覚で状況を教えてください>

原材料価格は、2月と比較して



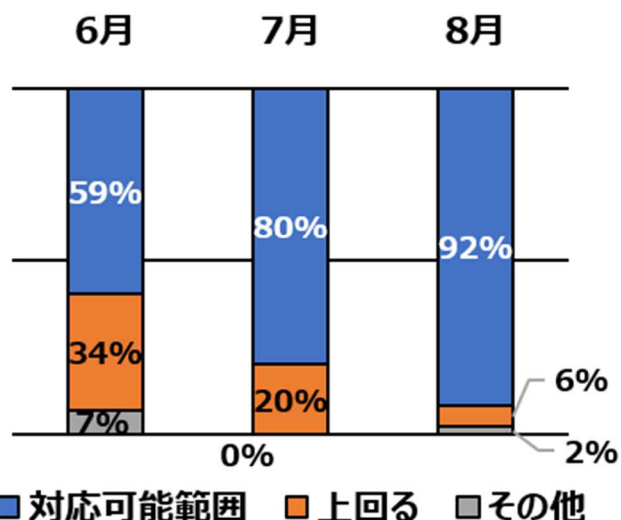
【2月⇒8月では】 原材料価格の上昇レベルについて、40~60%アップが半減したものの、20~40%アップの選択がほぼ6割を占める結果で、高止まりが想像される。

【コメントの要約】

- ・溶剤類は6月頃をピークに下落・値戻しの動きがみられ、9月以降も若干の下落が期待される。一方、ホルムズ海峡封鎖前の水準には戻っておらず、依然として高値圏にある。
- ・樹脂や顔料は高止まりが続き、封鎖前と比較して20~40%程度上昇しているとの声もある。樹脂については今後も上昇基調を予想する意見があり、容器類も値上げが見込まれている。
- ・ナフサ価格は下落傾向にあるものの、原材料価格への反映は十分に進んでいない。価格が下落しても数%程度にとどまり、高騰前の水準には戻らないとの見方が強く、供給側による価格是正の進展にも不透明感がある。

【総論】 溶剤類は下落・値戻し傾向にあるものの、封鎖前の水準には届かず高止まり。樹脂・顔料等も高値が続き、ナフサ下落による価格是正は限定的となっている。

注文状況は



【7月⇒8月では】 8月では「上回る」が6%まで減少し、ほぼ平常状態に落ち着いてきたと思われる。

【コメントの要約】

- ・原料によって若干の納期遅れや一部製品の供給制限があるものの、対応可能な範囲。原材料の入荷も落ち着き、調達不安は全体として緩和している。
- ・7月以降はパニック的な注文も沈静化。一部顧客では積み増した在庫の消化・調整が始まっている。
- ・8月以降は受注量が前年並み、または前年を下回るなど鈍化傾向にある。一方、原材料の入荷安定化や顧客在庫の消化に伴い、9月以降は通常水準への回復を期待する声もある。

【総論】 原材料の調達環境は概ね安定し、買い込みやパニック的な発注は収束。積み増し在庫の調整により受注は鈍化しており、9月以降の正常化が期待される。